



発行所

一般社団法人
全日本木材市場連盟
 編集・発行人 本柱 楽 1-7-12
 東京都文京区後楽 林友ビル6階
 〒112-0004 電話 03(3818)2906
 FAX 03(3818)2907
 毎月1回1日発行
 定価・年3,000円
 (会員は会費に含まれています。)

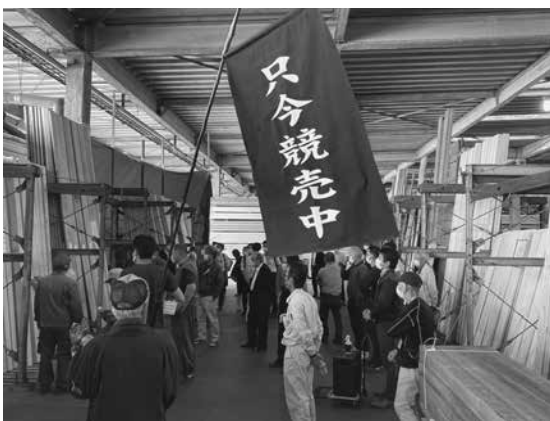
■第50回JAS製材品展示会を開催

1 東京会場―東京中央木材市場(株)
 9月21日(水)、第50回JAS製材品普及推進展示会が東京中央木材市場株(飯島義雄社長)において開催された。展示会には、10社から50㎡のスギ・ヒノキの柱材、造作材等のJAS製材品が出品された。飯島社長は挨拶の中で、来年から営業を開始する千葉県富里市の市場では、JAS認証の構造材や羽柄材を



「審査・計測の様子(東京中央木材市場(株))」

使った建物も建設していることを紹介し、木材流通に携わる者として木材製品の品質を消費者にわかりやすく伝えることが大切と述べた。その後、活発な競りが行われた。また、当日は、健康、安全、商売繁盛を祈願する木霊祭と農林特市が開催され、多くの買い方が訪れ活況を呈した。
 前日9月20日(火)に行われた審査会では、信田聡審査委員長をはじめとする審査員による厳正な審査が行われた結果、多くの出品が高い評価を得た。



「JAS展示即売会の様子(東京中央木材市場(株))」

2 丸宇木材市売(株) 北浜市場
 10月13日(木)には、丸宇木材市売(株)北浜市場(青木豊実社長、埼玉県)において第50回JAS製材品普及推進展示会が開催された。展示会には、10社から52㎡のスギ・ヒノキの柱材、造作材等のJAS製材品が出品され、活発な競りが行われた。

前日の9月12日(水)の審査会では、信田聡審査委員長をはじめとする審査員による厳正な審査が行われた結果、多くの出品が高い評価を得た。
 JAS展示会・審査会の開催に御協力いただいた、東京中央木材市場(株)、丸宇木材市売(株)の皆様、並びに各会場での審査会に御出席いただいた審査委員、東京都、埼玉県、農林水産省消費安全技術センター、全木研、JAS検査員を始めとする関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



「審査・計測の様子(丸宇木材市売(株))」

■第67回全国優良木材展示会開催(東京木材市場(株))

影山木材(株)に東京都知事賞

東京都木材団体連合会(庄司良雄会長)と東京木材市場協会(市川英治会長)は10月6日(木)に、東京木材市場(株)(市川英治社長)において全国優良木材展示会を開催した。

開会に当たり、庄司良雄都木連会長は挨拶の中で、関係者への感謝と共に昭和31年に全優展を開始した趣旨や意義を紹介し、最近の木材需給を取り巻く環境の変化も踏まえ、国産材の需要拡大への協力や植えて育てて製品を作った育てるといふ取組への支援を呼び掛けるとともに、展示会に集まった優良材の盛大な買上げを要請した。

前日10月5日(水)に行われた審査会においては、東京都木材団体連合会の岩



「JAS展示即売会の様子(丸宇木材市売(株))」



「審査の様子」



「式典の様子」

間浩一事務局長の指導により13社136㎡の製材品について、「寸法、技術、表示・結束、乾燥、出荷実績」等の項目の厳正な審査が行われ、特に品質に優れ、製材技術が高い製品が選ばれた。審査結果は以下のとおり。

- ① 都知事賞・影山木材(株) (静岡県)
- ② 都産業労働局長賞・(株) ウッディコイケ、(株) 佐川産業、協和木材(株)、(株) 野上製材所、二宮木材(株)
- ③ 都木連会長賞・東北木材(株)、(有) 東部産業、(株) 沓澤製材所、(有) 関野材木店、(株) 佐川林業

表彰式では、東京都知事賞などの各賞を受賞者に贈呈し、来賓の東京都産業労働局廣瀬光一郎森林産業課長、全木連田口護常務、都買連青木陽一郎副理事長の御挨拶を頂いた。市川社長は挨拶で、メジャーリーグで活躍する大谷選手の取組み姿勢に触れ、業界は引き続き厳しい状況の中にあるが、我々もめげることなく頑張っていきたい、長い歴史の本展示会は継続は力なりを示すもの、全国から集めた優良木材の全量のお買い上げをお願いすると述べ、活発なセリが行われた。

■第62回千葉県優良木材展示会開催

千葉県森連、(一社) 千葉県木材振興協会、千葉県木材市場(協)、ちばの木認証センターは、10月20日(木)、千葉県木材市場(協) (小池正男理事長) において千葉県優良木材展示会を開催した。

事前の審査会では、素材の部24点、製材品の部11点及び間伐材の部2点の審査が行われ、表彰式では、最優秀賞林野庁長官賞には素材の部 平野林業(株)・スギ(84cm×5m)と製材品の部 (有) 勝又木材・スギ(6cm×13・5cm×4m)



「式典の様子」



「式典の様子」

が表彰された。表彰式後のセリは、多くの買方様が集まり活況を呈した。



「セミナーの様子」

■令和4年度CW法木材関連事業者登録の推進セミナー・個別相談会を開催

10月14日、全市連、全買連、全木連は共催によりクリーンウッド法及び登録制度の周知、登録促進や合法性証明に必要な情報提供を行う「木材関連事業者登録の推進セミナー・個別相談会」を林友ビルにおいて開催した。セミナーには25名が参加した。林野庁木材利用課氏橋亮介課長補佐の「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)の概要と意義について」、全木連加藤正彦企画部長の「ガイドラインに基づく合法木材供給制度とクリーンウッド法」、日本住宅・木材技術センター伊巻和貴主席研究員の「第二種木材関連事業者の登録申請手続き等について」の講義が行われ、受講者は熱心に受講した。

■徳島県と鳥取県でSSCM推進フォーラムを開催

令和4年度マーケットインによる安定供給体制強化促進事業による取組が各地で進んでいる。

○徳島県SSCM推進フォーラム

令和4年8月29日(月)、徳島市グランヴィリオホテルにおいて、徳島県サプライチェーンマネージメント推進フォーラムの令和4年度第1回情報交換会が開催された。

会議には、事務局を務める徳島県木協連をはじめ、製材・プレカット・合板等の加工、住宅、木材市場等の流通、素材生産、森づくり等に携わる協会・団体・企業及び徳島大学、徳島県、林野庁など幅広い分野から27名が参加した。

会議では、令和4年3月に作成した徳島県サプライチェーン基本構想・計画に示した川上、川中、川下における課題、



「徳島フォーラムの様子」

及び令和4年度のマーケットインによる安定供給体制強化事業において取り組む川上対策(丸太供給体制構築)、川中対策(マーケットインの県産材流通・加工体制構築)、川下対策(需要者側へのアプローチ)の進め方等が議論された。この他、林野庁から最近の木材需給の状況、徳島県から建築物省エネ法と建築基準法の改正等の情報提供があった。

○鳥取県産材SSCM推進フォーラム

令和4年10月3日(月)、鳥取市白兎会館において、鳥取県産材サプライチェーンマネージメント推進フォーラムの令和4年度第1回会合が開催された。

会議には、事務局を務める鳥取県森連をはじめ、林業、製材・プレカット等の加工、住宅、木材市場等の流通、運輸、素材生産、バイオマス等に携わる協会・団体・企業及び鳥取県、研究機関、林野庁など幅広い分野から37名が参加した。会議では、令和4年度のフォーラム運



「鳥取フォーラムの様子」

営計画について、運営方針と専門部会の設置が決定した。専門部会は、流通情報のデジタル化に向けたシステム開発や需給情報等を基に事業者のマッチングに向けたシステム開発などを行うシステム部会、県産材利用を拡大するために必要な情報・技術の抽出と提案、県産材製品の供給体制の強化に取り組む設計・建築部会を設置することとなった。さらにこれらの専門部会の取組を進めるため、令和4年度システム部会運営計画と令和4年度設計・建築部会運営計画の具体的な内容が議論された。

■農林漁業信用基金が東京木材市場と東京銘木(協)で研修

10月14日、東京木材市場(株)と東京銘木協同組合は、農林漁業信用基金の若手職員の研修を行った。東京木材市場では、市川英治社長から「木材を利用することが地球温暖化対策として有効と考えられる時代になってきた。本日は木材を手で触っていただき、是非その良さを知ってほしい」との挨拶があり、菊地實統括部長から、最近の木材市況と木材流通の状況、江戸時代からの東京の木材取引の歴史、木材市場の役割、複式市場や木材センターの取引の形態などについて、写真や絵を用いた資料により詳しい説明を行った。また、新木場相原の土橋善裕氏から、林場で製材品の種類や用途、樹種、等級と品質、寸法、価格、木取りの方法などについて、クイズを交えた親しみやすい解説があり、研修生は製材を

手で触り肌で感じながら違いを学んだ。その後、東京銘木(協)の酒井彰事務局長から、東京銘木協の沿革、銘木とは何か、外材も含めた取扱商品と用途、樹種と産地、価格、最近の市況等について説明があった。



「研修の様子」



「研修の様子」

「令和3年木材需給表」の公表

国産材の供給量は12年連続で増加し、木材自給率は41・1%。

林野庁は、9月30日、令和3年(2021年)の我が国の木材需給に関するデータを集約・整理した「令和3年木材需給表」を取りまとめ、公表した。概要以下のとおり。なお、需要・供給量は丸太換算で表示。

1 木材需要の概要

(1) 総需要
令和3年(2021年)における木材の総需要量は、82,132千m³で前年に比べ7,693千m³(10・3%)増加した。その内訳は、用材が67,142千m³で前年に比べ5,750千m³(9・4%)の増加、しいたけ原木が246千m³で前年に比べ4千m³(1・7%)の増加、燃料材が14,744千m³で前年に比べ1,939千m³(15・1%)の増加である。

(2) 国内消費

国内消費量は、78,881千m³で前年に比べ7,451千m³(10・4%)増加した。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、パルプ・チップ用材の2,629千m³(10・6%)、燃料材の1,940千m³(15・2%)である。

(3) 輸出

輸出量は、3,251千m³で前年に比べ242千m³(8・0%)増加した。この中で、前年に比べて増加したものは、丸太の75千m³(5・4%)、製材品等の60千m³(21・8%)、合板等の58千m³

(32・4%)、木材パルプ・チップ等の50千m³(4・3%)である。

2 木材供給の概要

(1) 総供給

令和3年(2021年)における木材の総供給量は、82,132千m³で前年に比べ7,693千m³(10・3%)増加した。その内訳は、用材が67,142千m³で前年に比べ5,750千m³(9・4%)の増加、しいたけ原木が246千m³で前年に比べ4千m³(1・7%)の増加、燃料材が14,744千m³で前年に比べ1,939千m³(15・1%)の増加である。

(2) 国内生産

国内生産量は、33,723千m³で前年に比べ2,574千m³(8・3%)増加した。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、丸太(用材)の2,092千m³(9・6%)である。

(3) 輸入

輸入量は、48,409千m³で前年に比べ5,119千m³(11・8%)増加した。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、木材チップ等の2,538千m³(15・2%)、燃料材の1,516千m³(39・1%)である。一方で、製材品等は前年に比べ218千m³(2・2%)減少、木材パルプも199千m³(4・0%)減少した。

3 木材自給率

建築用材等の自給率は、製材用材の国内生産が大きく増加したこと等により、48・0%で前年に比べ0・8ポイント上昇したが、非建築用材等の自給率は、パルプ・チップ用材及び燃料材での輸入が

大きく増加したこと等により、35・5%で前年に比べ2・0ポイント低下し、総数での自給率は41・1%で前年に比べ0・7ポイント低下した。

林野庁人事異動(抄)

10月1日付等 順不同 敬称略
○(退職) ↑橋本裕治(四国森林管理局長) ↑遠藤順也(独) 水資源機構首席審議役)

木アド講習会参加者募集

本年度は木材アドバイザー養成講習会(日本建築士会連合会CPD認定プログラム予定)を令和元年度の開催以来3年ぶりに開催します。皆様のご参加をお待ちしております。定員は東京会場が40名程度、大阪会場が40名程度で、日程は以下の通りです。

- (東京会場) 令和5年2月17日(金) 9:30~17:20、2月18日(土) 9:00~15:40 (於) 林野会館(東京都文京区大塚3-28-7)
 - (大阪会場) 令和4年2月24日(金) 9:30~17:20、2月25日(土) 9:00~15:40 (於) 大阪木材仲買会館(大阪市西区南堀江4丁目18番10号)
- 受講料は、25,000円(受講料、テキスト代等を含む) (問合先) 全日本木材市場連盟 文京区後楽1-7-12 林友ビル TEL 03-3818-2906 FAX 03-3818-2907 申し込み受付は12月1日以降。

雑記帳

訪日外国人観光客が戻ってきた。新型コロナウイルス以前は年間300万人を超える人が海外から訪れるようになっており、年間4兆円ものインバウンド消費があった。インバウンドの経済効果へ期待は大きい。訪日外国人誘致の取組の歴史は長く、JTBの設立は明治45年に遡る。当時の訪日外国人は年間約2万人といわれる。当時の観光客誘致の目的は、海外からの旅行者による国内での消費もあるが、国内製品の良さを知ってもらい輸出につなげようという狙いも大きかった。○最近では海外からの観光客に日本食、特に日本人が普段食べている食事に人気がある。新型コロナの前は居酒屋や昭和の雰囲気が残る横丁を訪れる外国人が増えていた。居酒屋は日本人の普段の生活習慣を体験できるところが魅力だという。知らないところを旅する醍醐味である。いわれてみれば飲み放題なんて日本以外では聞いたことがない。新型コロナが収まり早く元の生活に戻れることを願うばかりである。○日本の家屋の美しさも評価されている。京都の町屋をリフォームした旅館は訪日観光客に人気である。日本に滞在して中国に帰ってから和室のあるホテルを建てた経営者もいる。○最近では日本で新たな技術やデザインによる大型の木造建築が建てられるようになってきた。これらの木造のオフィスビル、学校、店舗などを見ると新たな和風建築の姿ができてつとあると感じる。新しい日本の木造建築が訪日観光客を通じて海外に広まり、木材製品の輸出につながることを期待している。